

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	このえ西亀有保育園
施設所在地	東京都葛飾区西亀有4-18-16
法人名	株式会社 なないろ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

【声/音/動きの表現遊び】

<テーマの設定理由>

本園は葛飾区の静かな住宅街に位置しており、落ち着いた環境の中で子どもたちが活動に集中できる特性を持っている。日頃から「五感を通じた体験」を保育の柱としており、特に音楽に合わせて身体を動かす「表現教室」などの時間を子どもたちが心待ちにしている点は、当園の大きな強みである。

今回のテーマは、この「音への感受性」という強みを活かし、「声・音・動き」の三感覚（聴覚、触覚、身体感覚）の統合を促すことを主たる目的として設定した。リトミックにおいて視覚的な教具や道具を介在させることで、自分の身体の動きを客観的に捉え、考えながら身体を動かす「計画性」や、道具を何かに見立てる「想像力」の伸長を図る。

## 2. 活動スケジュール

- ① 7月～8月：すくわくプログラムへ参加するための視聴勉強会を実施し、導入の準備を行う。
- ② 9月～：本部保育責任者と共に活動内容とねらいについての視点合わせを行い、園内各担当者の設定と計画の立案を行う。
- ③ 随時：保育者は年齢別研修に参加して保育案を立案し、実践ごとの評価記録・課題改善を行う。
- ④ 随時（7月～3月）：4歳児・5歳児クラスにて、教具や動画（視覚的モデリング）を活用したリズム遊びを定期的実践。
- ⑤ 継続：活動を実施した日の午後に担当者が集まり、振り返りを実施。議事録を職員間で共有するとともに、掲示板を通じて保護者へ活動内容を周知する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【遊具・道具の配置と環境構成】強弱や拍子を取る練習のためにカラーマーカー（マーカーコーン）を用意した。また、リズム太鼓やケンパリング等を配置し、音に合わせてリズムを取ったり、全身を使って拍を感じたりすることで、楽しみながら感覚統合を促す物理的環境を整えた。

【視覚的モデリングの活用】聴覚的リズム（声・音）だけでなく、視覚的モデリング（動画）を組み合わせることで、マルチモーダル（多感覚的）な体験を促す環境を設定した。子どもたち自身がより興味関心を持って取り組めるよう、また保育者の取り組みが深まるよう月齢数の発達に沿った言葉・文脈でストーリーを構成し【声/音/動き】を取り入れた動画やガイドブックを制作した。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

保育者が叩く太鼓の音に合わせて、「歩く・走る・止まる」を身体で表現する活動を行った。また、ケンパリングを連結させてリズムに合わせてジャンプしたり、マーカーコーンを使用して指や手で拍子を取る実践を段階的に進めた。「わくわく・どきどき」する体験を通じ、子どもたちが遊びの中で「できた！」という達成感を全身で感じられるよう支援した。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

リズム遊びを取り入れた際、子どもたちからは「拍子ってなあに?」「リズムの取り方どうするの?」といった音楽的要素に対する具体的な問いが生まれた。

実際に保育者が叩く太鼓に合わせて、2拍子、3拍子、4拍子とマーカーコーンを順番に叩く活動では、最初は「どの指だっけ?」「どこを叩くんだっけ?」と戸惑う姿も見られた。しかし、太鼓が鳴るとすぐにリズムに合わせて叩けるようになり、次第にクラス全体で叩くリズムが揃っていった。動画や道具の使用が刺激となり、「またやりたい!」という意欲的な声が多く聞かれ、頭での理解だけでなく「拍」や「リズム」を身体全体で内面化していく様子が見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

活動実施日の午後に担当者が集まって振り返りを行い、その内容を掲示板等で保護者にも共有した。

最初はリズムが揃わず、指の使い方に迷う子どもも多かったが、実践を重ねるうちにリズムが合い、主体的に楽しむ姿へと変化した。活動を継続することで、子どもたちの日常的な集中力や、自分の身体をコントロールする感覚（計画性）が養われたと感じている。

さらに、個々の動きに「集団のリズム」が加わってクラスに一体感が生まれ、日頃のダンスや体操も以前より早く動きが揃うようになるなど、本プログラムが他の保育活動にも確かな相乗効果をもたらす成果を確認できた。